

# 1

## 後利用基本構想とは

### 1

#### 基本構想策定の趣旨

令和4（2022）年に弥富市に移転予定の名古屋競馬場（名古屋市港区泰明町1-1）の敷地を、令和8（2026）年に開催する第20回アジア競技大会のメイン選手村として利用することが予定されています。

メイン選手村の検討に際しては、大会時の選手村を計画するだけでなく、大会後もレガシー（遺産）として有効活用されるよう、大会を契機としたまちづくりも合わせて進めることが重要です。さらに、名古屋競馬場の敷地は、約20haという大規模な公有地であることから、行政がしっかりと役割を果たしながら、民間活力の導入を図り、新たな地域の拠点として都市機能を誘導し、適切な土地利用転換を進めていく必要があります。また、名古屋競馬場の移転、選手村の整備・運営、大会後のまちづくりという各段階を踏まえ長期的な視点に立ち事業を進めていく必要があります。

このような背景を踏まえ、アジア競技大会開催後の令和12（2030）年頃を見据え、将来のまちづくりの方向性を示すために、愛知県及び名古屋市が本構想を策定するものです。

※選手村の計画・整備は、大会の準備・運営の実施主体である、一般財団法人愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）が実施

### 2

#### 基本構想の位置づけ

本構想は、第20回アジア競技大会の開催を念頭におき、愛知県の「あいちビジョン2020」（次期あいちビジョンを検討中）及び「アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン」、名古屋市の「名古屋市総合計画2023」及び「2026アジア競技大会NAGOYAビジョン」と整合するとともに、その他の個別計画との連携を図った内容とします。

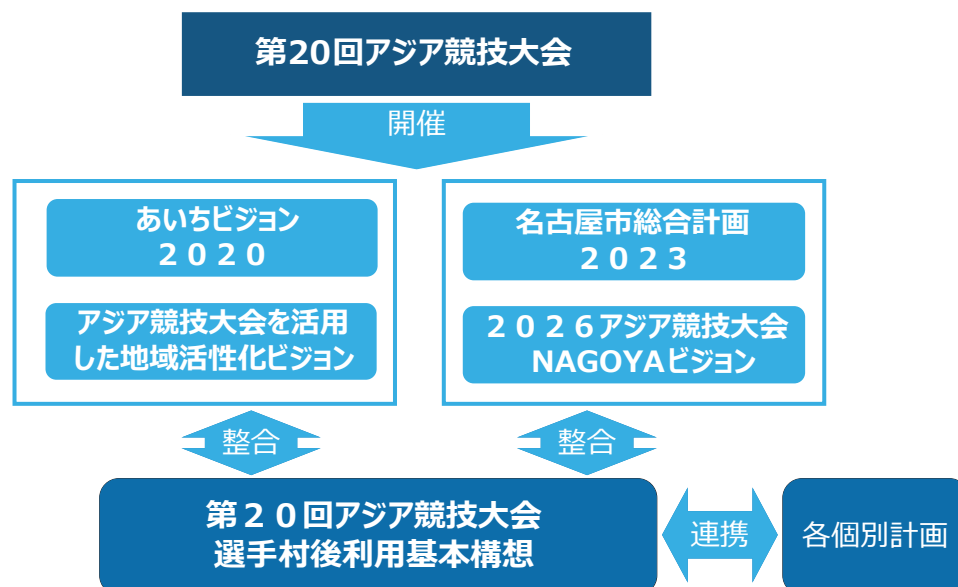


図1：本構想の位置づけ

3

## 持続可能な開発目標（SDGs）との関係

平成27（2015）年9月の国連サミットにおいて、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）を含む、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。

SDGsでは、世界共通の目標として、健康や教育、経済成長、気候変動に関するものなど、多岐に渡る17の持続可能な開発目標と、169のターゲットが設定されており、いずれも令和12（2030）年までの達成を目指すものです。SDGsは国際社会全体の普遍的な目標であり、地域の持続的な発展にとっても大変重要な目標です。

愛知県及び名古屋市は、国に対しSDGsの達成に向けた取組を提案し、令和元（2019）年7月にSDGs未来都市として選定されていることから、本事業を進める上でも、その理念を念頭に置いた国際的な潮流を踏まえた構想とします。



図2：「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された国際目標